

テーマ 『これからの特別支援教育のあり方を一緒に考えませんか？』

主催団体 中信地区障害児の豊かな教育をすすめる会

#### 開催日時・会場

- ✦ 平成 25 年 1 月 19 日（土）16 時～18 時
- ✦ 松本市総合社会福祉センター 大会議室

#### 参加者

- ✦ 意見交換参加者 約 100 名  
（主催団体の会員及び一般県民）
- ✦ 県側参加者 4 名  
（知事、次世代サポート課長、特別支援教育課長、健康長寿課発達障害者支援員）



#### 主催団体「中信地区障害児の豊かな教育をすすめる会」について

松本養護学校、安曇養護学校等の保護者、教員等を中心に平成 24 年に結成され、知的障害、自閉症、発達障害等、多様な障害児教育の問題に取り組まれている団体です。

#### 会場の様子など

知事は、「特別支援教育のあり方をどうしていくかは、県の重要なテーマ。策定中の新しい中期総合計画では、誰にでも居場所と出番がある社会を作っていくという目標を掲げ、平成 25 年 4 月からスタートさせていきたい。知事の立場でやれることはしっかりやらなければいけないが、皆さんと一緒に、自分はこれができるかな、私はここで協力できるかなというように知恵を集めて、力を合わせて子供たちを支えていく長野県を作っていく。今日は是非そういう場にさせていただきたい。」とあいさつし、意見交換に臨みました。

意見交換は、子の年齢によって抱えている問題意識も異なるということで、小学部入学前、小学部、中学部及び高等部という 4 グループに分かれ、各グループに知事を含む県側参加者が 1 人ずつ参加して進められました。

#### 参加者の主なご意見

参加者のご意見の一部をご紹介します。

- ✦ 地域との連携が十分に進まない。市への要望もしていきたいが、地域の学校では学校間で支援に向けた取組に差がある。
- ✦ 卒業後の自立と就業に向けて、二十歳までは学校にいて訓練を受けられるように、高等部を高専化（5 年制化）できないか。又は、高等部を卒業してからも通える専門の職業訓練校が必要だと思う。
- ✦ 親には医師から聞いた医療の専門的な話を学校等の関係者に伝えるのが難しい。現状は、学校と福祉と医療がちぐはぐに対応している。子供に関わる学校、福祉、医療の関係者が一堂に会して、細かな情報を伝え合いながら、子供のことを考える場を作ってほしい。



結びのあいさつとして、知事は「県に要望するだけでは、知事が代わったり予算が減ったら何も動かなくなる。学校に言っても変わらないという意見は、私の悩みと同じ。学校現場の声や保護者の声はどうして止まってしまうのか。どうして反映されないのか一緒に考えてほしい。皆さんの思いに沿った政策を実現するためには、根本的には財源や権限を国から地方に移して、地方分権を推進することが必要。県も皆さんの思いを受け止めて頑張っていくので、一緒になって取り組んでください。」と語りかけていました。

※参加者のご意見等については、以下で県の対応状況を含めて公開する予定です。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/soumu/koho/kurumaza/towndata.htm>